

第1回奈良 ESD 連続セミナー

大西 浩明

◇日時：2023 年 5 月 9 日（木）19 時～21 時

◇方法：Zoom によるオンライン形式

◇参加者：33 名

◇内容：「SDGs の基礎的理解（1） ～SDGs の目指すもの～」 奈良教育大学准教授 及川幸彦先生

1. SDGs が提案された背景（グローバル・イシュー）

絶え間ない紛争と対立

顕在化する環境問題

苛烈化する自然災害

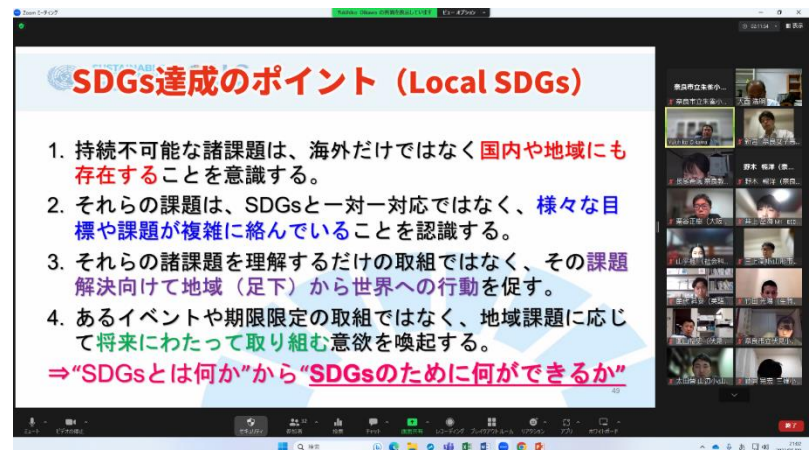
グローバル化と自国主義

経済的格差の拡大

科学技術の進歩と社会構造の変革

人口格差

感染症の拡大



世界の暴力や差別

- ・約 2800 万人の子どもたちが紛争で故郷を奪われる
- ・推定 1 億 5200 万人の子どもたちが働かされている
- ・15 歳未満で結婚した女性が世界に推定 2 億 5000 万人 など

子どもの貧困と不平等

極度の貧困状態下の 7 億 1000 万人のうち、子どもが 3 億 5000 万人

絶対的貧困（1 日 1.92 ドルで生活を強いられている）

相対的貧困（その国の所得の中央値の半分以下で生活している）子ども 7 人に 1 人程度

母子家庭になると 2 人に 1 人

気候変動とその予測

何の対策も取らない場合（RCP8.5） 21 世紀末には気温が最大 4.8℃上昇

最も温暖化を抑えた場合（RCP2.6） ほぼ現状維持

上昇を 1.5℃までに抑えることを世界は目指している

1.5℃以上上昇すると永久凍土が溶け出し、メタンガスが大量に放出される

相乗効果によって「地球が暴走する」

未知の病原菌が凍土から放出されることも考えられる

海面上昇が島嶼国や沿岸部に大きな影響を与えている

世界で災害が多発・甚大化している

災害の増加、気象系災害の件数増加が顕著

4 つのプレートに浮かんだ災害列島日本

動植物が絶滅したり生物多様性が失われたりしている

森林伐採と持続可能な生産・消費

パーム椰子から取れるパーム油は、食品、洗濯洗剤、医薬品などに幅広く利用されている

パーム椰子農園の急激な拡大に伴う熱帯雨林の伐採、生物多様性の喪失、土地の劣化、山林火災の多発

海洋プラスチック問題

2050年には海の魚の量を超える？

分解されず、細かく砕ける → マイクロプラスチック

有害物質の付着 生態系への影響

海の世界連鎖で蓄積される 魚介類を通じて人間も？

奈良や山形のように内陸部の子どもたちにこそ海洋教育が大事！

相対的貧困 国際比較と貧困の連鎖

日本の貧困率は OECD の平均を上回り、G7 ではアメリカに次いで高い

→ SDGs で貧困の連鎖を断ち切りたい

ジェンダーの格差

日本のジェンダー格差は 120/156 位で、先進国で最低レベル

新型コロナウイルスの感染拡大

新たな脅威

2. SDGs がめざす世界

「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」

誰も置き去りにしない

持続可能な開発の 3 つの側面

経済成長、社会的包摂、環境保護という 3 つの主要素を調和させることが不可欠

3 つが調和しないと持続可能な社会にはならない（バランス重視）

SDGs のウェディングケーキモデル

1992 年 地球サミット → MDGs → SDGs

MDGs（8 ゴール 21 ターゲット）から SDGs（17 ゴール 169 ターゲット）へ

途上国に向けた目標

すべての国の目標

SDGs はすべての国の目標であり、包括的で互いに関連している

5 つの P People（人間） Prosperity（繁栄） Planet（地球） Peace（平和） Partnership

SDGs が目指す世界像…「誰一人取り残さない」世界の実現

3. SDGs の枠組みと特徴

①MDGs の深掘り（例：極度の貧困 → あらゆる貧困）1・2・3・4・5・6

②先進国にも関わりの深い新たな課題 7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17

普遍的：目標は普遍的なものであり、すべての国とすべての人による行動を必要とする

すべてが関連しているので、1 対 1 対応、個別対応ではいけない 総合的に取り組むことが必要

幅広く野心的であり、「誰も置き去りにしてはならない」ことを強調

4. 奈良（地域）の課題に向き合う SDGs

達成度 12/47 位

自己充足度 5 位 尊厳指数 2 位 命指数 9 位 自殺死亡者数が少ない など

女性雇用率 47 位 公共施設の耐震化率 44 位 社会教育学級講座数 45 位 など

地域に根差した ESD for SDGs

SDGs 達成のポイントは、「ローカル SDGs」

- ①持続不可能な諸課題は、海外だけではなく国内や地域にも存在することを意識する。
- ②それらの課題は、SDGs と一対一対応ではなく、様々な目標や課題が複雑に絡んでいることを認識する。
- ③それらの諸課題を理解するだけの取組ではなく、その課題解決に向けて地域（足下）から世界への行動を促す。
- ④あるイベントや期間限定の取組ではなく、地域課題に応じて将来にわたって取り組む意欲を喚起する。

地域の文脈に即し、地域の課題に向き合う SDGs の推進（大牟田版 SDGs）

「SDGs とは何か」 から「SDGs のために何ができるか」

N 助（ネットワーク）型研修プログラム ex) アクサ減殺教育プログラム

多様な主体の参画と協働による豊かな学びの創造

N 助は地域・全国・世界の重層的ネットワーク

子どもの世代に貧困が連鎖 → 日本全体の経済も下向きになっていく

家庭が経済的に豊かでなくても、保護者の学歴が高くなくても、子どもを取り巻く家庭・学校・地域での人間関係が豊かなものになっていれば、子どもの学力はかなり高いものとなる可能性が強い。

この状況をつくり出すのが教員の役目ではないか